

松波むかし語り ここに住み続けて

その43

今回のお客様

西千葉教会の牧師

きした のぶ よ

木下 宣世さん 71歳 2丁目

“「この町の教会」です。秋のバザーや12月のクリスマスなどにはぜひ来てみてください！”



昭和33年 西千葉教会が誕生

『木下』を『きした』とお読みするのは珍しいですね？」とお聞きすると、「父が世界遺産で有名な岐阜県白川村の出で、いまも白川村に『きした』姓が何軒か残っています」ということでした。木下さんは、お父さんも牧師をしていた関係で、現在は四谷学院となっているパルコ近くの教会で育ち、その後、轟町から昭和33年にいまの西千葉教会が誕生してここに移ってきました。その間、新宿小に始まって、緑町中から千葉大、そして現在

に至るまで松波周辺で過ごしてこられました。子ども時代の思い出をうかがうと、「西千葉駅前の通りは当時、ジャリ道で、車もめったに走らないからよくキャッチボールをして遊びましたね。子どもの多い時代でしたから、篠原旅館や当時あった岩田薬局など同級生も大勢いました。お隣りの土地を半分譲っていただいて教会が建ったのですが、このあたりは松林が多かった名残りの松がお隣りの庭に数本残っています」。そう言えば、当時広々としていた西千葉駅も松の木が多かったことを思い出しました。

「いつごろから、お父様と同じ牧師になりたいと思われたのでしょうか？」とうかがってみると、「子どもの頃、父の仕事が教会に来られる信者の方にとっても喜ばれているのを見て、いい仕事だと思ったのがきっかけでしょうか。小学生の頃から、おとなになったら牧師になると考えていたようです」との答えが返ってきました。この教会は、キリスト教でもプロテスタント最大の日本キリスト教団に属していて、全国に1700ほど、県内でも62の教会をもつ大きな組織の一つです。「カトリックはバチカンという本山がありますが、プロテスタントのほうはそうした本山を頂点とするピラミッド構造にはなっていない、それぞれの教会が経営的にも独立した形をとっています」。木下さんはいま、東京教区というブロックの教区長も兼ねておられて、お忙しい毎日です。

「牧師さんは日常、どんなお仕事をされているのですか？」という質問に、「日曜礼拝の説教に何を話すか、その準備が大きいですね。聖書のことばを現代人に向けて解説するわけですが、聖書に出ている2000年以上も前の言葉を、注釈書を何冊も読んでみなさんにお伝えする話をこしらえるのにいちばん力を入れています」、ほかにも信者のみなさんの協力で開くバザーなどのイベント、もちろん日常、信者のみなさんから寄せられる相談に乗ることも大切な仕事の一つとのことでした。「私たちの仕事は、精神的に言えばこの地域に使命があるわけで、この町の安寧のために祈るよう心掛けています」。なんだか町会の仕事と共通点がありますね。教会員が高齢化してきているという点も、町会と似ているかも知れません。「バザーなどには地域の方々にも出店いただきますし、“この町の教会”ですから、クリスマスなどにはぜひ一度、教会をのぞいてみてください！」。